

地域研究集会

2025 年度九州沖縄地区合同シンポジウム
東シナ海および周辺海域における海洋環境と水産資源変動

日 時：2025 年 11 月 28 日(金) 10:30～16:45

会 場：沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番 琉球大学 理系複合棟 102 教室

コンピーナー：久木幸治（琉大理）・中村啓彦（鹿大水）・堤英輔（鹿大水）

参加申込：参加申込は不要です。＊対面のみ開催

問合せ先：hisaki@cs.u-ryukyu.ac.jp（久木幸治）

共 催：日本海洋学会沿岸海洋研究会，日本海洋学会西南支部

挨拶：黒田寛（一般社団法人水産海洋学会副会長） 10:30～10:35
中村啓彦（日本海洋学会西南支部長） 10:35～10:40

座長：中村啓彦・堤英輔（鹿大水）

1. 東シナ海における浮魚類仔魚の分布・輸送と海洋環境との関わり 10:40～11:05
佐々千由紀（水産機構資源研）

2. 九州西方の南下流（甌南下流）とマアジ太平洋系群加入量との関係 11:05～11:20
石川和雄・井桁庸介・佐々千由紀・高橋素光・北島聡・井元順一・安田十也（水産機構資源研）・
堤英輔・中村啓彦（鹿大水）・伊藤幸彦（東大大気海洋研）

3. 広域分布する小型浮魚類における初期成長の海域間比較 11:20～11:35
齋藤美優・久米元・小玉将史（鹿大水）・一宮睦雄・小森田智大（熊県大環）・小針統（鹿大水）

4. 北部薩南海域における小型浮魚類および動物プランクトンの空間分布 11:35～11:50
伊藤穂香（鹿大院農林水産）・久米元・小玉将史（鹿大水）・一宮睦雄・小森田智大（熊県大環）・
小針統（鹿大水）

（休憩） 11:50～12:00

5. Automated Detection of Drifting Seaweed in the East China Sea Using Multispectral Satellite Imagery 12:00～12:15

Ng Kai Hsiang・加古真一郎（鹿大院理工）・堤英輔・中村啓彦・小針統（鹿大水）

6. 海洋ビックデータを利用したモジャコ漁支援ツールの社会実装 12:15～12:30
坂野紬・堤英輔・久米元・仁科文子・中村啓彦・須本祐史・遠藤光・小玉将史（鹿大水）・
作野裕司（広大院先進理工）・加古真一郎・山城徹（鹿大院理工）・小針統（鹿大水）

7. VIIRS データを用いた東シナ海における灯光漁船の操業動向と海洋環境との関係解析 12:30～12:45
宮下智一・齋藤類・石川和雄・高崎健二（水産機構資源研）

(休憩)

12:45～14:00

座長：堤英輔（鹿大水）・久木幸治（琉大理）

8. 沖縄トラフ、トカラ海峡を流れる黒潮に供給される栄養塩とその影響 14:00～14:25

長井健容・Gloria Silvana Durán Gómez（海洋大）・齊藤宏明・小川浩史（東大大気海洋研）・
小針統（鹿大水）・吉江直樹（愛媛大）・中村啓彦（鹿大水産）・鋤柄千穂（JAMSTEC）・
高嘉雪（海洋大）

9. Analyses of submesoscale processes in the Kuroshio flowing through the Tokara Strait: Insights from submesoscale-permitting simulations and high-resolution observations 14:25～14:40

Gloria Silvana Durán Gómez・長井健容（海洋大）・小針統・中村啓彦（鹿大水）・鋤柄千穂（JAMSTEC）

10. Island wake dynamics and their influence on surface productivity in the south of Japan from GOCI-II Satellite Observations 14:40～14:55

Dudsadee Leenawarat（OIST）・Jutarak Luang-on（JAMSTEC）・御手洗哲司（OIST）

11. Comparison of Schemes of Wave Induced Mixing in a Regional Ocean Model 14:55～15:10

LIU Tianran・広瀬直毅（九大応力研）・吉川裕（京大院理）・LEE Eunjeong（KIAPS）

12. トカラ海峡流速場に対する乱流混合モデルの影響 15:10～15:25

中畑駿之助（九大院総理工）・広瀬直毅・遠藤貴洋（九大応力研）・仁科文子・中村啓彦（鹿大水）

(休憩)

15:25～15:40

13. 九州西岸における甌南下流の係留 ADCP 観測 15:40～15:55

堤英輔・中村啓彦・仁科文子（鹿大水）・加古真一郎（鹿大院理工）・石川和雄（水産機構資源研）

14. GNSS 高度計によるトカラ海峡の海面高度繰り返し観測 15:55～16:10

市川香・油布圭・宮地佑希野・野田穰士郎・酒見亮佑（九大応力研）

15. 北太平洋における海面水温の極端現象：Marine Thermal Flips 16:10～16:25

黒田寛（北大低温研）

【総合討論】

進行 中村啓彦・堤英輔（鹿大水）・久木幸治（琉大理）

16:25～16:40

閉会の言葉

16:40～16:45

開催趣旨：東シナ海およびその周辺海域は、水産資源と海洋学の両面において極めて重要な価値を有する海域である。東シナ海の大部分は水深 200 メートル以浅の大陸棚から構成されており、大陸から流入する豊富な栄養塩と温暖な気候条件により、多種多様な魚介類の産卵および生育に適した環境が形成されている。特に、東シナ海大陸棚の斜面域を北上する黒潮は、魚類の回遊において重要な役割を果たしており、太平洋岸へ至る移動経路の一部を構成している。一方で、近年の気候変動により、海水温の上昇や海洋の酸性化が進行しており、これらが当該海域の海洋生態系に与える影響が強く懸念されている。水産資源の変動を正確に予測するためには、海流や水温、栄養塩分布といった複雑な海洋過程を理解することが不可欠である。さらに、気候変動がこれらの海洋過程にどのような変化をもたらすかを予測することも求められている。

このような背景のもと、本シンポジウムでは、東シナ海およびその周辺海域を対象として、リモートセンシ

ングによる広域観測，現場での大気・海洋観測，数値モデルを用いた解析など，多様な手法による最新の研究成果と残された課題について議論する．議論の対象には，当該海域における大気・海洋・生態系の相互作用の現状評価と将来予測，黒潮を含む海流系の時間的・空間的変動とその予測，さらに，こうした変動が水産資源に及ぼす影響などが含まれる．

本シンポジウムは，物理・化学・生物など異なる専門分野の研究者間の連携と情報交換を促進し，東シナ海およびその周辺における海洋現象の理解を深めることを目的として開催されるものである．